

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2371301124
法人名	株式会社アイ・ユースネット
事業所名	グループホーム とまり木守山
訪問調査日	平成20年11月28日
評価確定日	平成21年1月8日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371301124
法人名	株式会社アイ・ユーネット
事業所名	グループホーム とまり木守山
所在地	名古屋市守山区翠園二丁目2101番地 (電話) 052-797-8108

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】(平成20年11月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年6月16日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 3人, 非常勤 18人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,800 円	その他の経費(月額)	23,550 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	375 円
	夕食	375 円	おやつ	105 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成20年11月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	7名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82 歳	最低	61 歳	最高	94 歳
協力医療機関名	種田クリニック				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは風致地区の緑豊かな閑静な住宅地にある。池の横に地域の公園作り計画が進んでいて、ホームも積極的に協力している。草刈りに参加し公園に植える花やベンチを提供する予定である。地域の人々と交流を深め、地域に根ざしたホームである。職員皆が知恵を出し合って色々な角度からの知恵で入居者を支援しようと、職員の豊かな個性を大切に、前向きに取り組んでいく姿勢のホームである。入居者一人ひとりが主役という理念の下、本人の心を汲み取った関わりや可能な限り一人ひとりの希望にそえる支援を心がけている。ホームの庭には野菜や果樹、花が植えられ、菜園で入居者が収穫した野菜が食卓に並ぶこともある。積極的に外出し、色々な楽しみ事も多いが、本人の希望による参加である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題はないが評価結果を参考にして、改善項目について皆で話し合い、改善に取り組み、サービスの質の向上に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	「介護の質の向上につなげましょう」と評価の目的を明確に示し、全員が評価に取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2~3か月に1度開く運営推進会議には自治会長、民政委員、家族が参加し、普段の様子やレクリエーションの様子などの写真を見せたり、資料の説明をしている。取り組みの経過と成果、また、今後の取り組みについて報告している。報告について出席者から意見をいただいたり、質疑応答をしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族との関係を大切に、訪問時には直接家族に話しかけ聞き取りをしている。毎週水曜日は悩み相談日としており、入居者の悩みや愚痴だけでなく、家族からの話しも聞いている。本人や家族から出た意見は個人カルテに記入し、介護計画に取り入れている。運営推進会議でも意見をいただき運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが組長となり、入居者一人ひとりは町内会員である。防犯パトロール、公園整備の草取りや清掃、ゴミ当番、学区の行事参加(盆踊り、祭り、運動会)にも参加している。地域の小学校が社会見学にきたり、地域の学校の卒業式、バザーなどに参加している。進行中の公園づくりには花の苗を提供した。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「最善の介護サービスを最高の誠意と人間愛をもって安心して受けられるよい介護 主役は利用者様 地域社会への貢献」である。地域社会との関わりを大切に、地域の一員としての暮らしを支援する理念である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、各フロアに掲示している。全職員が名札の裏に理念を入れて、日々理念を確認し、意識するようになっている。入居者の意思を尊重し、入居者一人ひとりの行動の奥の気持ちを敏感に感じ取れる観察力を大切にして、ケアの原点について考えている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが組長となり、入居者一人ひとりは町内会員である。防犯パトロール、公園整備の草取りや清掃、ゴミ当番、学区の行事参加（盆踊り、祭り、運動会）にも参加している。地域の小学校が社会見学に来たり、地域の学校の卒業式、バザーなどに参加している。進行中の公園づくりには花の苗を提供した。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「介護の質の向上につなげましょう」と評価の目的を明確に示し、全員が評価に取り組んだ。評価結果を参考にし、改善項目について皆で話し合い、改善に取り組み、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2～3カ月に1度開く運営推進会議には自治会長、民政委員、家族が参加し、普段の様子やレクリエーションの様子などの写真を見せたり、資料の説明をしている。取り組みの経過と成果、また、今後の取り組みについて報告している。報告について出席者から意見をいただいたり、質疑応答をしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区役所の担当者に行事報告書、運営推進会議議事録、認定調書、グループホームのパンフレット、評価結果報告書等を渡し、活動状況などを把握していただいている。市役所に出向く時に、運営上の疑問点や他施設の対応方法などのアドバイスをいただいている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月家族に、ホーム便り、行事の際の写真、行事予定表、請求書を郵送し、入居者の暮らしぶりを伝えている。健康状態に変化のあった時は、すぐに家族に連絡している。自分で金銭管理のできる入居者には、自分で管理してもらい、自分で管理できない入居者には家族の同意をもらい、ホームが立て替えた場合は明細書と請求書を家族と一緒に送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族との関係を大切にし、訪問時には直接家族に話しかけ聞き取りをしている。毎週水曜日は悩み相談日としており、入居者の悩みや愚痴だけでなく、家族からの話しも聞いている。本人や家族から出た意見は個人カルテに記入し、介護計画に取り入れている。運営推進会議でも意見をいただき運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動、配置換えは入居者への影響を最小限に抑えるよう配慮している。新たな職員を配置する場合は、入居者にきちんと紹介し、担当職員を固定して現場研修するようにしている。ケアの統一を図り、職員交代によるダメージを最小限にするよう努め、スムーズに移行している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアでは、現場で働きながら学び、経験し、理解していくことが大切であると考えている。外部研修は業務として参加でき、研修参加者は講習内容をまとめた報告書を作成し、勉強会で皆に伝え、毎日のケアに反映できるよう努めている。新任職員にはマンツーマンで、職場での実務を通じて教育を実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県、名古屋市のグループホーム協議会に加入しており、ターミナルについてなどの講習会に参加し、意見交換や空き情報確認などの情報交換をしている。同法人のグループホームとの交流もある。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人の来所をお願いしている。他の入居者とコミュニケーションを取るなかで、ホームの雰囲気を感じ取ってもらえるよう支援し、本人の安心と納得を大切にしている。入院している方には、管理者、代表、職員が何度も面会に行き、本人の状況を把握し、本人にも安心してもらえるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する人が心から尊敬や感謝の気持を持って、入居者を第一に考えて、共に活動することにより、共感し支えあう関係を築いていけるよう努めている。職員は調理や家事の生活の知恵を入居者から学ぶことも多く、「忙しいから大変だね」と労わりの言葉を入居者からかけてもらうことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のケアの中で、本人の思いや意向を把握するよう努めている。いつもと違う様子の方には、入浴や散歩時など個々に接する機会に、「何か気になってることは無いですか？」など本人の気持ちを聞いている。また、毎週水曜日の相談室を利用して確認することもある。コミュニケーションの困難な方には表情を観察したり、家族と相談したり、生育歴を参考にしている。入居者の思いを家族と職員で共有して、最善の介護を検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に家族の記入した資料、面談した情報をもとに介護計画を立てる。1カ月後職員と課題について話し合い、家族の意見などを含め介護計画を立て、完成した計画は全職員に閲覧し確認印を得ている。家族には介護計画を送付し、確認後押印して返送してもらっている。入居者ごとに1日の流れをつくり、共通サービス、個別サービス内容が詳しく記入されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは3ヵ月ごとに行っている。担当制であり、カルテには全職員が入居者ごとの身体面、精神面、社会面の変化や提携医療機関の指示などを記載している。申し送りノート、評価見直しノート、介護記録にも日々の変化を記載している。家族には介護計画変更に対しての意見を聞きながら、計画担当者が現状に即した新たな計画書を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を受けていて週1回、歯科診療と訪問診療、訪問看護の健康チェックが行なわれている。訪問美容院は月1回行っている。個別で入居者の数十年ぶりの里帰り旅行に同行したり、グループホーム外での習いごとの送迎も行うなど柔軟な支援を行なっている。ジャスコ、ダイエー、コメダ、すがきやなど気軽な外出支援も行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関を説明して、入居者にかかりつけ医の希望があれば対応している。協力医の通院介助は職員が対応し、病状の変化などある場合は、家族に電話で報告している。受診内容は連絡ノートに詳しく記載され、家族が訪問した時に目を通してもらう。かかりつけ医の受診は家族が対応するようになっていくが病状に応じて職員が同行し、今後の対応に役立っている。定期健診は年1回行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に入居者、家族に「重度化した場合における対応に係る指針」について説明し同意書を取っている。看取りの経験があり、段階的に家族と連絡を取り合い情報交換を行っている。終末期ケアについては職員が不安を出し合い、どのような支援をするか、何ができ、できないか等の勉強会を行っている。家族、医師、訪問看護師、職員と一緒に終末期に向けて方針を決め共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に「利用者の個人情報の使用に関する同意書・会社における個人情報の使用目的の同意書」を説明し、入居者、家族から同意書を取っている。職員は入居者の聞こえる範囲の声の大きさに配慮し、声が大きすぎないように注意している。入居者が「ありがとう」と言うと職員も「ありがとうございました」と互いに感謝の言葉をかけあう姿が見られた。職員同士が情報交換する場合等は、入居者に気配りして個人が特定できないようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課として一応の基準はあるが、一人ひとりの健康や精神状態に合わせ、また、変化に合わせた支援をしている。ボーリング、マージャン、将棋、碁、トランプなど参加したい人が楽しみ、テレビも見たい人が見ている。職員はゆったりとした気持ちで接し、入居者の心を汲み取れるように日々努力している。また、可能な限り入居者一人ひとりの希望に添えるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食材業者を利用しており、献立は決まっているがメニューを変えることもある。調理、(皮をむく、もやしひげをとる)、配膳、後片付けなど入居者と職員が行っている。気分転換に入居者の希望を聞き出前をとったり外食(月1回)をしたりしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は1、2階と交代で沸かしている。入浴は週3回であるが、希望により水曜日以外は毎日入浴できる。入居者の希望を聞きながらの入浴は週3回であるが、入らない時には清拭をしている。拒否される入居者には声かけを工夫したり、職員を変えたり、医師の助言をもらったりしている。入浴は職員が付き添い、ゆったりとした中で楽しめるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花の水やり、入浴の準備、食事の下準備などをできる範囲で行っている。毎月、四季折々のイベントを計画しており、9月は屋台を設置し、焼き鳥、たこ焼き、たません、他10品と豊富なメニューを楽しむ。職員は入居者の社会性の継続で、実際のお金で買い物する楽しみや、好きなものを美味しく食べることを楽しむように、一人ひとりの様子を見ながら支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は入居者の声の大きさや不穏な様子や表情の変化を見て散歩や買い物に誘い、気分転換やストレスの発散ができるよう配慮している。散歩は、近くの池に鯉のえさやりや、道中でゴミ拾いしながら職員と一緒にいる。歩行が不自由な方には車いすを使用している。バス旅行も年4~5回計画され、東山公園、水族館などに入居者は喜んで参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、鍵をかけずユニット入口には鈴をつけ、出入りが分かるようになっている。入居者の不穏を感じる時には施錠することもあるが、ほとんど施錠していない。“職員一人ひとりが入居者全員を見るようなつもりで気をつける”“入居者の変化を見逃さない”など随時職員同士で話し合い、工夫している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を設定して年3回避難訓練を実施している。事前に職員の不安をミーティングで話し合い、それを消防署に質問し訓練に活かしている。非常階段には簡易タンカが用意されている。地域の防災訓練にも参加しており、救急救命の講習はほとんどの職員が受講済みである。災害時の非常食に乾燥餅、乾パン、水等が準備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成による献立には、カロリーが記載され1,600kcalを目安にしている。味は薄味で入居者によっては個別に刻み食、とろみ食にしている。また、盛り付けなどを工夫し食べ過ぎにならないようにしている。水分量は1,000ccを目安に、毎日摂取量を記録し、お茶やコーヒー、牛乳、ジュース、スポーツ飲料などを入居者の希望を聞きながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は階段とスロープになっており、クリスマスのイルミネーションが飾られ、季節感を感じられる施設づくりに努めている。玄関に入ると福祉まつりに参加した作品が展示されている。広々とした居間には入居者が活かした生花が飾られ、テーブルがあり、空間を利用してソファが3カ所に設置されている。壁面には入居者と職員で合作した1月～11月の月暦が掲示されている。洗面所の洗面台が入居者に合わせて高さが自由に変えられ、自立支援が行われている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具、テーブル、アルバム、仏壇、自作の切り絵が持ち込まれている。床は畳の部屋とフローリングの部屋があり、手すりが付いている。夜中トイレに行かれる入居者にはベット柵に鈴を掛け転倒予防の工夫が見られる。掃除は本人が行ったり、職員と一緒にするなど、居心地良く過ごせるよう配慮をしている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。